

百折不撓 (第3学年だより) * 何度の失敗にもめげずじけず挑戦すること。

中学校生活の終わりに向けて

私立、公立高校の入試が一段落し、お子さんたちも保護者の方々も、ホッとしている方、結果が気になり入試前よりやきもきしている方、様々だと思います。

とはいえ、おそらくは人生初の体験であろう、入試を乗りきったお子さんたちを認めてあげてください。

合否結果はもちろん気になるでしょうし、良い結果になることを誰もが願っています。保護者の皆様も知っての通り、お子さんたちは、そのための努力を積み重ねてきました。

しかし入試には、競争相手がいます。相手のあることですから、自分の努力だけではどうにもならないことがあります。良い結果になるかもしれませんが、残念ながらそうでない結果になってしまうこともあるでしょう。

「気づく」ことの大切さ

公立高校入試の前日、前夜からの湿気の影響で、廊下は結露し、ツルツルになっていました。

みんなが慎重に歩く中、雑巾床や階段を拭く数人の女子生徒の姿がありました。床や階段が濡れていることに気づき、自発的に拭き掃除をやってきていました。

私も時間ギリギリまで一緒にやったのですが、その傍らを通るお子さんたちの中には、「ありがとう！」「ごめんね！」「助かる！」と、何らかの言葉をかけて通っていく子もいました。

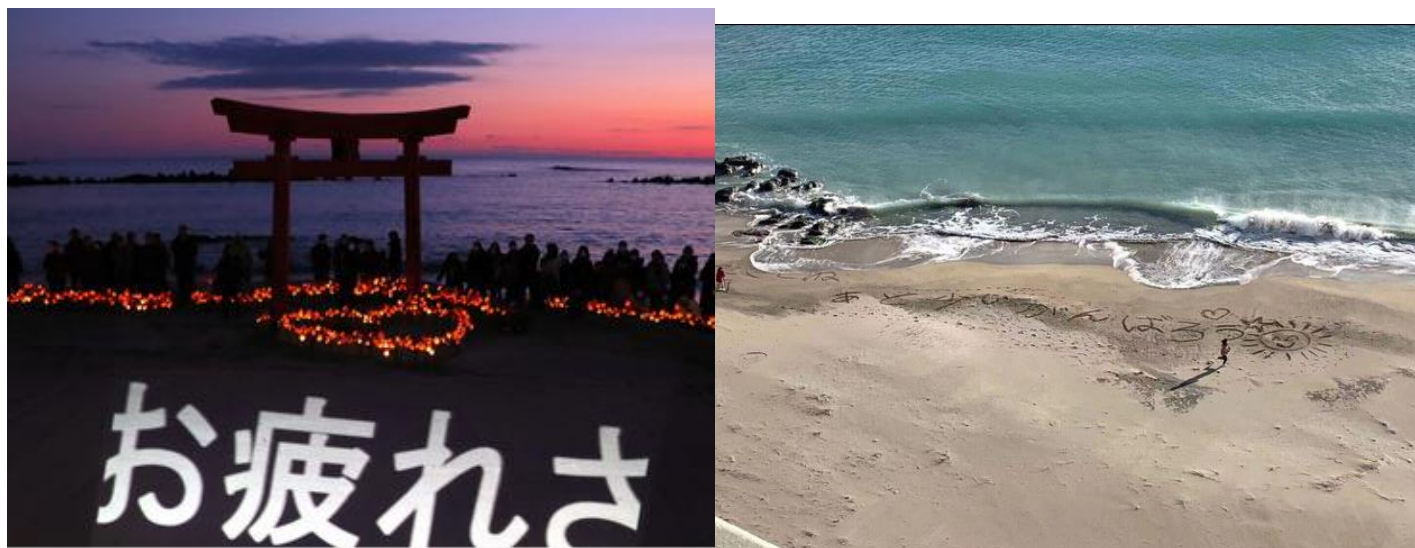
公立高校入試前日という切羽詰まった日でありながら、廊下や階段が濡れていることに気づき、自分自身にできることに気付いた子達がいる、そうやってくれている子たちの存在に気づき、その行為に対して温かい言葉をかけられる子達がいる、それが嬉しかったですね。



心温まる

新型コロナウイルスに感染してしまった方が連日増えていることに不安を感じている方も多いかと思います。ネガティブなニュースが続くなか、心温まるニュースも飛び込んできました。

新型コロナウイルスによる肺炎が発生した中国・武漢市から帰国した176人が滞在している勝浦ホテル三日月（千葉県勝浦市）前の砂浜で11日夕、帰国者を励まそうと、地元の住民ら約100人が約3千本の竹灯籠（どうろう）に火をともした。砂浜には、プロジェクターで「あと少しです。がんばれ」「また、勝浦で会いましょう」と激励の言葉が投影された。



【写真】ホテル前の浜辺には竹灯籠（どうろう）が並べられ、地元の人たちが宿泊客に向かって大声で「がんばれー」と叫びながら手を振っていた。鳥居の前ではプロジェクターによるメッセージも流された = 2020年2月11日午後5時48分、千葉県勝浦市、鬼室黎撮影

竹灯籠を使ったイベントをしている市内の地域おこし団体「Z P 倶楽部」（末吉和徳会長）が企画。午後5時から1本ずつ点灯し、砂浜は温かな光で満たされた。「がんばれー」とホテルに向かって手を振る人もいて、帰国者の一部は窓を開け、手を振ったり、じっと見たりしていた。

(2月11日 朝日新聞)

これだけ日本中、いや世界中がナーバスになっている中でも、「人として、やるべきことは何か？」を教えてくれた出来事なのではないでしょうか。

今後の予定

19日（水） 認知症サポーター養成講座（午後）

*3年生は、今年度最後のお弁当になります。

20日（木） 球技大会

21日（金） 百人一首大会

25日（火） 卒業式練習①

卒業遠足事前指導

26日（水） 卒業遠足（東京ディズニーランド）

27日（木） 卒業式練習②

共通選抜合格発表事前指導

28日（金） 共通選抜合格発表（公立入試を受けていない子は、1時間目で下校）

3月2日（月） 平和学習

3月4日（水） ゆかた着付け体験

救命救急講習

SEPRO